

農産FAX情報 第3号

令和6年6月15日
ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 ばれいしょ

○疫病の防除

- ・疫病菌は18～19℃が最適温度であり、降雨により多湿になると急速にまん延します。
- ・ばれいしょ疫病初発予測（FLABS）の「危険期到達日」を確認しましょう。
- ・降雨などにより、ほ場に入れないことが予想される場合はダブルインターバル（14日間の防除間隔）効果のある薬剤を使用しましょう。

表1 疫病の防除例

薬剤名	系統名	希釈倍率 (倍)	ダブル インターバル	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	効果 の発現
グリーンダイセンM水和剤	ジチカーバメト	400	—	10回	7日前まで	予防
フジドーLフロアブル	無機化合物 (銅)	500	—	—	—	予防
フロンサイドSC	他合成 (フルジナム)	1,000～ 2,000	1,500	4回	7日前まで	予防
ランマンフロアブル	QiI	1,000～ 2,000	1,000	4回	7日前まで	予防
リライアブルフロアブル	ベンズアミド ・カーバメート	800～ 1,000	800	3回	7日前まで	予防 治療
プロポーズ顆粒水和剤	CAA ・クロロトリル	750～ 1,000	750	5回	7日前まで	予防 治療

※フジドーLフロアブルは軟腐病にも登録あり。

○害虫の防除

- ・北海道病害虫防除所の6月予報によると、アブラムシの発生期が「早」、発生量は「多」となっております。発生状況にあわせて防除を行いましょう。
- ・オオニジュウヤホシテントウの発生が確認されています。食害による被害が大きい場合は、防除を行いましょう。

2 秋まき小麦

○赤かび病防除

- ・開花にバラツキがあるほ場が散見されます。なるべく全ての穂に薬剤がかかるよう、防除間隔1週間を目処に複数回防除を実施しましょう。

- ・耐性菌の発生を抑えるため、同系統薬剤の連用は控えましょう。

3 てんさい

○根腐病・葉腐病の防除

- ・高温多湿条件で発生が助長されます。気象経過に注意し、予防防除に努めましょう。また、排水不良や連作・短期輪作ほ場では6月中旬から早めに防除を行いましょう。

表2 根腐病・葉腐病の防除例

薬剤名	系統名	希釈倍率 (倍)	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	効果 の発現
ミリオネアフロアブル	SDHI	4,000	4	7日前まで	予防 治療
アミスター20フロアブル	QoI	1,500	3	14日前まで	予防 治療

○褐斑病の防除

- ・例年より発生が早い可能性がありますので、発生があった場合は早めに防除を実施しましょう。

○ヨトウガの防除

- ・北海道病害虫防除所の6月予報によると、ヨトウガの発生期が「やや早」、発生量は「やや多」となっております。
- ・例年6月中旬ごろに発生が確認されています。ほ場観察を行い、被害株率50%を目安に防除を行いましょう。

4 豆類

○中耕

- ・中耕は地温上昇による初期生育の促進が期待できます。生育が進んでいる場合は根を傷つける可能性があるため、畦間への根の伸長状況を確認しツメの幅を調整しましょう。

◎農薬散布時のドリフトに注意 ！

◎水分・塩分補給で熱中症対策 ！！

◎安全確認を行い、農作業事故防止 ！！！！